

市町村体力向上アクションプラン(平成28年度版)

(別紙様式2)

(国東市)教育委員会

1 体力の状況

ア 平成27年度体力・運動能力等調査結果(県)

調査項目	体力		上肢起二指		長容体前屈		反復跳び		20mハットラン		50m走		立ち幅跳び		ボール投げ	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
小1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小2	◎	◎	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
中1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
中2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
中3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※1) ◎は、国東市の平均が全国平均と同等かそれ以上となっているもの
 ※2) ○は、国東市の平均が県平均のみを上回っているもの
 ※3) ●は、国東市の平均が全国平均のみを上回っているもの

○全国平均を上回る調査項目の割合が、昨年度の62.5%から76.4%にさらに向上し、成果指標(65%)を大きく上回った。
 ○さらに小学校男子(83.8%)小学校女子(89.6%)、中学校男子(41.7%)中学校女子(70.8%)において、すべての達成指標(それぞれ、68.8%、83.3%、41.7%、62.3%)を達成した。
 ○中学2年生が小学校時代より課題があったが、中学校で大きく改善された。
 ●調査項目で見ると50m走、立ち幅跳びに課題がある学年が多い。

イ 平成27年度生徒質問紙調査結果(全国)

調査項目	小学生				中学生						
	全体	男子	女子	割合	全体	男子	女子	割合			
運動への愛好度	64	73	55	64.7%	52	56	66	45	53	62	41
運動への関心	23	18	28	24.1%	30	27	22	31	29	26	33
運動スポーツの状況	45	57	34	67.7%	58	72	89	62	85	90	79
運動スポーツの状況(毎日)	8	6	9	7.6%	10	5	14	5	3	7	
部活動・スポーツ少年団や地域スポーツクラブへの参加状況	57	69	45	64.7%	53	76	87	65	88	94	80
朝食の有無	85	85	86	86.8%	85	84	83	84	78	78	78
1日の睡眠時間	53	52	54	48.4%	51	16	19	13	15	18	12
睡眠時間	9	10	7	13.1%	15	11	16	14	17	20	18

○運動・スポーツを毎日(週3日以上)する児童生徒の割合(週3日以上)する児童生徒の割合が、県平均を大きく上回っている。
 ○運動・スポーツをしない児童生徒の割合が、県平均(9%)よりも少ない。(小学校7% 中学校5%)
 ●中学校において運動への愛好度が県平均を下回っている。
 ●睡眠時間が県平均に比べると少ない。

※ 〇は国東市の平均が県平均を上回っているもの(同数含む)

ウ 当該市町村の児童生徒の特徴的な様子
 ・市教委主催の陸上競技教室、陸上競技記録会、リレーカーニバル、水泳教室、水泳記録会等のスポーツイベントに参加する児童の割合は2～3%であり、学校からの働きかけにより参加者は、年々増加しているものの、積極的に運動・スポーツを楽しもうとする意欲に乏しい面がある。また、地域が広く交通の便も悪いため、保護者の送り迎え等の協力がなければ参加しづらい状況にある。
 ・部活動やスポーツ少年団に入り、熱心にスポーツに取り組む児童生徒がいる反面、ほとんど運動・スポーツをしない児童生徒がいる。(特に小学校女子)
 ・中学校の男子において、運動をほとんど毎日する割合の高さや、部活動への所属状況の割合の高さが運動能力調査の結果に結びついていない。

2 平成25～27年度間の取組の検証

平成27年(最終年)度の指標	達成状況・取組状況・成果等
達成指標 ○体力・運動能力調査において全国平均以上である調査項目の割合 全体 65.0% 小男 68.8% 小女 83.3% 中男 41.7% 中女 62.3%	小学校男子 83.8%【達成】 小学校女子 89.6%【達成】 中学校男子 41.7%【達成】 中学校女子 62.3%【達成】
○運動好きな児童生徒の割合 全体 65% 小学校 65% 中学校 65%	小学校 64%【未達成】 中学校 53%【未達成】
○運動・スポーツをほとんどしない児童生徒の割合 全体 5% 小学校5% 中学校5%	小学校 7%【未達成】 中学校 5%【達成】
○運動・スポーツを毎日(週3日以上)する児童生徒の割合 全体 80% 小学校80% 中学校85%	小学生 67%【未達成】 中学生 85%【達成】
取組指標	
○一校一実践(全年次週3日以上)実施率100%	小学校 できている 81.8% ほぼできている18.2% 中学校 できている 0% ほぼできている75% できていない 25%
○体育授業での基礎体力づくりトレーニング実施率100%	小学校 できている72.8% ほぼできている27.3% 中学校 できている75% ほぼできている25%
○小学校の家庭における縄跳びタイム(家縄)をはじめとする家庭での運動実施率 80%	小学校 できている27.3% ほぼできている45.5% あまりできていない18.2% できていない9%
○部活動時の基礎体力づくりトレーニング(中学校)	中学校 できている75% ほぼできている25%

	できている(9割以上)		ほぼできている(7割以上9割未満)		あまりできていない(5割以上7割未満)		できていない(5割未満)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
一校一実践	9	0	2	3	0	0	0	1
体力づくりトレーニング(授業時)	8	3	3	1	0	0	0	0
健康チャレンジ	3	0	5	2	2	1	1	1
体力づくりトレーニング(部活動時)	-	3	-	0	-	0	-	1

平成27年度2学期までの取組状況

【総括】
 小中学校ともここ数年で最高の結果を残すことができた。特に中学校の伸びは目覚ましく、昨年度より27ポイント以上伸びている。現中学2年生は小学校時代から課題のある学年であったが、大きく改善している。一校一実践、体育授業の改善をはじめとする取り組みの成果や教員の意識改革が非常に大きい。また、中学校においては、部活動を活用した取り組みをすることにより、体力向上が組織的な取組みなりつつあることが推測される。学校間での結果の格差や取り組みの差が見られることが課題である。

3 平成27年度の取組状況

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動
 《市教委》
 1)各学校へ体力向上プランの作成を依頼し、必要に応じて内容の協議を行う。 2)体力向上アクションプランの取組状況を報告させる。
 3)家庭や地域における運動習慣確立のための企画・立案を行う。 4)部活動指導者講習会を実施する。
 《学校》
 1)今年度の評価を行った上で、児童生徒の実態に応じた内容で、通年にわたる休み時間等を活用した体力向上に向けた取組(一校一実践)の改善・実施を行う。(週3日以上) 2)今年度の評価を行った上で、すべての体育の授業の導入部分で、各学校の児童生徒の実態に応じた内容の基礎体力づくりトレーニング時間の改善・実施を行う。 3)家庭や地域における運動習慣確立を推進する。 4)すべての部活動において、生徒の実態に応じた週3日以上基礎体力づくりトレーニングを実施する。 5)週運動実施時間60分未満の児童生徒を把握し、学級担任や養護教諭と連携のうえ、保護者及び児童生徒に対し、学校若しくは、家庭においての健康づくりのための具体的な提案を行う。

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

《市教委》
 1)全小・中学校の体育授業力の向上を図るため、小学校2校に体育専科教員を配置し、配置校及び訪問校における取組の推進を行い、授業公開(各小・中学校から1名以上の参加)・実践発表を実施する。
 2)中学校体力向上推進校を指定し、取組の推進及び授業公開(年1回開催、各小・中学校から1名以上の参加)・実践発表を実施する。
 3)全小・中学校の体育授業力の向上や充実した体力向上に向けた取組、さらには系統的な指導に資するため、市全体の体力に係る実態についての説明・優良事例の紹介等の内容による年間2回(5月・2月)の体育主任会議を実施する。
 《学校》
 1)体力向上に向けた取組の充実を図るための体育環境の工夫・改善
 2)一校一実践・基礎体力づくりトレーニング等について、体育主任が各学校の体力・運動能力調査結果等による児童生徒の実態に即した内容で企画・立案し、校内の体育保健組織や運営委員会において審議し決定した後、全教職員により実施する。
 3)部活動における体力づくりトレーニングについて、体育主任が各学校の体力・運動能力調査結果等による生徒の実態を分析し、それを受けて各部活動担当が所属生徒の実態に即した内容で実施する等学校全体で取り組む。

4 課題(平成28年度に向けて)

ア 児童生徒の課題

	できている(9割以上)		ほぼできている(7割以上9割未満)		あまりできていない(5割以上7割未満)		できていない(5割未満)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
一校一実践	9	0	2	3	0	0	0	1
体力づくりトレーニング(授業時)	8	3	3	1	0	0	0	0
健康チャレンジ	3	0	5	2	2	1	1	1
体力づくりトレーニング(部活動時)	-	3	-	0	-	0	-	1

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題
 ●一校一実践は、「できている」割合が小学校は82%だが、中学校は0%であり、全体として取組指標(100%)が未達成である。
 ●基礎体力づくりトレーニングは、「できている」割合が小学校75%、中学校75%であり、取組指標(100%)が未達成である。
 ●健康チャレンジへの取り組みについては、小学校で1校、中学校で1校できていない。

●中学校では、全国平均を上回る調査項目の割合が56.3%で昨年、一昨年より大きく向上しているが、小学校レベルにまでは達していない。
 ●小中学校ともに立幅跳びに課題が見られる。
 ●中学校において運動への愛好度が下がっている。
 ●全国平均を上回る項目の割合の学校間格差が大きい(小:55.6ポイント、中:31.2ポイント)
 ●中学校の男子において、運動をほとんど毎日する割合の高さや、部活動への所属状況の割合の高さが運動能力調査の結果に結びついていない。
 ●中学1・2年生の男子において総合評価Aをこえる生徒割合が県平均より少ない。
 ●小学2年生の女子において、総合評価Eの児童が極端に多い。

5 平成28年度の目標及び指標

ア 児童・生徒の体力向上に係る目標
 1)体力総合評価の割合評価C以上の割合を小学生男女、中学生男子80%以上、中学校女子95%以上にする。
 2)体力・運動能力調査において、全国平均以上である調査項目の割合を76.4%以上を保つ。(H27:76.4%)
 3)運動好きな児童生徒の割合を65%以上にする。(H27:59%)
 4)運動・スポーツをしない児童生徒の割合を5%以下にする(H27:6%)と同時に、運動・スポーツをほとんど毎日(週3日以上)する児童生徒の割合を80%以上にする。(H27:75%)

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための目標
 1)児童生徒がどの学校どの学級に所属していても、体力をつけることができるようにするため、体力の学校間格差を小学校は40ポイント、中学校は15ポイント以内にすする。
 2)中学校において、管理職・体育教師が中心となり、組織的に体力向上に取り組む、一校一実践を充実し、基礎体力づくりトレーニングを含め実施率を小学校・中学校ともに100%にする。
 3)学校が家庭や地域と連携しながら、体力づくりの取組を進めていき、縄跳びタイムを含めた家庭での運動の実施率を80%にする。
 4)小学校において、一校一実践・基礎体力づくりトレーニングにおいて、50m走・立幅跳びの記録の向上につながる運動を取り入れ、両項目を全国平均まで高める。

達成指標

○体力総合評価の割合
 小学校男子・小学校女子・中学校男子
 C以上の割合 80%以上 D以下の割合 20%未満
 中学校女子
 C以上の割合 95%以上 D以下の割合 5%未満

○体力・運動能力調査において全国平均以上である調査項目の割合
 全体 76.4% 小学校男子 81.25% 小学校女子81.25%
 中学校男子 50.00% 中学校女子70.00%

○運動好きな児童生徒の割合
 全体 65% 小学校男子 75% 小学校女子60%
 中学校男子 65% 中学校女子50%

○運動・スポーツをほとんどしない児童生徒の割合
 全体 5% 小学校男子 5% 小学校女子 7%
 中学校男子 3% 中学校女子 5%

○運動スポーツを毎日(週3日以上)する児童生徒の割合
 全体 80% 小学校男子 80% 小学校女子 70%
 中学校男子 90% 中学校女子 85%

○体力の学校間格差を小学校は40ポイント、中学校は15ポイント以内にすする

取組指標

○一校一実践
 ・週3日以上取組がほぼできている(7割以上9割未満)以上の割合100%

○体育授業での基礎体力づくりトレーニング実施率
 ・ほぼできている(7割以上9割未満)以上の割合100%

○小学校の家庭における縄跳びタイム(家縄)をはじめとする家庭での運動実施率
 ・週3日以上ほぼできている(7割以上9割未満の児童が達成)以上の割合80%
 ・健康チャレンジへの参加率100%

○部活動時の基礎体力づくりトレーニング(中学校)の実施率
 ・ほぼできている(7割以上9割未満)以上の割合100%

○ほとんど運動をしていない児童生徒およびその保護者に対する個別の指導の実施率 100%

6 平成28年度の行動計画

ア 児童・生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校における行動
 《市教委》
 1)各学校への体力向上プランの作成依頼及び必要に応じて内容を協議する。
 2)運動量を確保しつつ、話し合い活動や助け合い活動を取り入れた授業実践を体育専科教員、中学校体力向上推進校での授業実践を通じて市内に提案する。
 3)学期ごとの体力向上アクションプランの取組状況の報告を各学校に求める。
 4)家庭や地域における運動習慣の企画立案を行う。
 ・全児童生徒の家庭において、縄跳びタイムをはじめとする家庭での運動時間を設定・実施する。
 ・毎週1回、縄跳びタイム(10分間)をはじめとする親子(保護者と子ども)での運動時間を設定・実施する。
 ・一年間継続して実施した児童を表彰する。
 ・市民健康課が提案する「健康チャレンジ」と連携した取組を提案する。
 ・健康チャレンジへの参加を呼び掛ける啓発チラシおよび市報へ記事を掲載する。
 5)部活動指導者講習会を実施する。

《学校》

1)今年度の評価を行った上で、児童生徒の実態に応じた内容で、通年にわたる(週3日以上)休み時間等を活用した体力向上に向けた取組(一校一実践)が主体的な活動になるよう、工夫・改善する。
 2)運動量を確保しつつ、話し合い活動や助け合い活動を取り入れた授業実践を行う。
 3)今年度の評価を行った上で、すべての体育の授業の導入部分で、各学校の児童生徒の実態に応じた内容の基礎体力づくりトレーニング時間の改善・実施を行う。
 4)家庭や地域における運動習慣確立を推進する。
 ・全小学生の家庭において、縄跳びタイムをはじめとする家庭での運動習慣確立を推進する。
 ・毎週1回、縄跳びタイムをはじめとする親子(保護者と子ども)での運動時間確立を推進する。
 ・全市民的に保護者が送り迎えをしない自力登下校を促進する。
 ・協育ネットワークによる体育の授業を推進する。
 ・部活動における外部指導者の積極的に活用する。
 ・総合型地域スポーツクラブ・地域のスポーツイベント等への積極的な参加を促進する。
 5)すべての部活動において、生徒の実態に応じた週3日以上基礎体力づくりトレーニングを実施する。
 6)週運動実施時間60分未満の児童生徒を把握し、学級担任や養護教諭と連携のうえ、保護者及び児童生徒に対し、学校若しくは、家庭においての健康づくりのための具体的な提案を行う。

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校における行動

《市教委》
 1)全小・中学校の体育授業力の向上を図るため、小学校2校に体育専科教員を配置し、配置校及び訪問校における取組の推進及び授業公開(各小・中学校から1名以上の参加)・実践発表を実施する。
 2)中学校体力向上推進校を指定し、取組の推進及び授業公開(年1回開催、各小・中学校から1名以上の参加)・実践発表を実施する。
 3)全小・中学校の体育授業力の向上や充実した体力向上に向けた取組、さらには系統的な指導に資するため、市全体の体力に係る実態についての説明・優良事例の紹介等の内容による年間2回(5月・2月)の体育主任会議を実施する。

《学校》

1)体力向上に向けた取組の充実を図るための体育環境の工夫・改善を行う。
 2)一校一実践・基礎体力づくりトレーニング等について、体育主任が各学校の体力・運動能力調査結果等による児童生徒の実態に即した内容で企画・立案し、校内の体育保健組織や運営委員会において審議し決定した後、全教職員により実施する。
 3)部活動における体力づくりトレーニングについて、体育主任が各学校の体力・運動能力調査結果等による生徒の実態を分析し、それを受けて各部活動担当が所属生徒の実態に即した内容で実施する等学校全体で取り組む。

7 平成28年度の人的支援の希望内容

1)来年度は、小学校の体育専科教員を本年度同様2名配置を希望する。
 ①1名は、武蔵東小学校を本務校とし、安岐小学校を訪問校とし2校の指導に当たる。
 ②1名は本年度同様、富来小学校を本務校とし、姫島小学校を訪問校とし2校の指導に当たる。

○体育専科教員は以下の役割を担うこととする。
 ・配置校において実践する。
 ・訪問校において実践する。
 ・要請のあった市内の学校を訪問し、体育指導について教員へのアドバイスや児童への指導を行う。
 ・授業公開を行う。(各校とも2回)
 ・体育主任会議における実践発表を実施する。